

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	早稲田大学	整理番号	1815
プログラム名称	パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム		
プログラム責任者	須賀 晃一	プログラムコーディネーター	林 泰弘

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 □ A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 □ B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 □ C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 □ D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、「Waseda Carbon Net Zero Challenge 2030s」においても中核に位置付けられ、総長のリーダーシップのもと大学院全体の改革と方向づけを牽引するものとなっている。また、大学院の新しいあり方を示すことが期待できる 13 大学の連携によるインターユニバーシティ型大学院としての基盤が計画を上回るかたちで構築されている。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、13 連携大学共通の理念のもと、連携をして定量的教育指標の標準化を行い、新規開発をした PEP ルーブリックを元に自己評価と複数指導教員によるクロス評価を行っている。学生は国際学会などで表彰をされるとともに、インターン先でも高い評価を得ている。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、連携 13 大学のプログラム担当者及び日本のインフラを担う主要な企業・機関が必修科目の講義・演習を担当し、共同研究を通じた学生指導と RA 費支援を行う等の体制が構築されている。</p> <p>優秀な学生の獲得については、13 大学が連携した説明会の実施や、イベントの開催、日英の HP 作成等様々な取組がなされているが、コロナ禍の影響等もあり、応募者数が漸減の傾向にある。キャリアパスの提示、動画の作成による学生個人へのアピールなど更なる取組が期待される。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、13 大学共通の PEP ルーブリックの活用、所属大学主査、連携大学副査、早稲田大学人社系教員、企業コンサルティング教員等による共同審査体制を構築している点が評価できる。</p>

事業の継続・発展については、連携 13 大学は、補助期間終了後も各大学の大学院改革に活用する意向を示している。また、大学予算を投入すること及びその予算規模について申請時に理事会にて承認済みである。さらに企業との共同研究や社会人学生の受け入れも順調に増えており、産学連携、人材育成のエコシステムの構築が進んでいる。